

農業技術センターニュース

目 次					
	貯蔵ショウガに発生する黒しみ症「根茎暗斑病」	… 1		高軒高ハウスにおける促成パプリカの環境制御による多収生産技術の研究	… 4
	施設栽培イチゴのヒラズハナアザミウマに対する薬剤の殺虫効果	… 2		3色ピーマンの品種別収量特性	… 5
	夏植えハナニラの養分吸収特性	… 3		加工用抹茶生産のための寒冷紗の被覆期間と生葉収量・品質	… 6

貯蔵ショウガに発生する黒しみ症「根茎暗斑病」



写真 ショウガ根茎暗斑病を発病した根茎

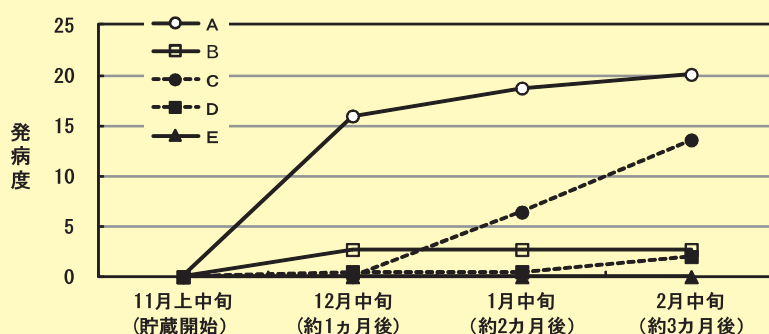


図 貯蔵中におけるショウガ根茎暗斑病の発病推移

注) A～Dは、前作で黒しみ症の発生が見られた圃場、Eは見られなかった圃場から収穫したショウガを用いた。11月上中旬に15℃に設定した予冷库に貯蔵し、黒色斑紋の発生程度を調査した。発病度(0-100)は、数値が高いほど黒色斑紋が大きく色が濃いことを示す。

貯蔵ショウガの表面に黒しみ症と呼ばれる黒色の斑紋を生じる障害が県内の各地で発生しており、品質低下を招くことから大きな問題となっています(写真)。本障害は、収穫時には気付かず、出荷時に見つかるため、その原因と発生時期が不明でした。

そこで、本障害の発生原因の解明に取り組むとともに、黒色斑紋がいつ発生しているか調査しました。

その結果、黒しみ症は、カビの一種である *Myrothecium verrucaria* という糸状菌

によって発生する病害であることが明らかとなり、病名をショウガ根茎暗斑病としました。また、黒色斑紋は収穫時には発生しておらず、貯蔵約1ヵ月後の12月中旬以降に発生し、貯蔵期間が長くなるにつれて、大きく目立つようになる傾向が確認されました(図)。

今後は、本病の感染時期や有効な薬剤を調べる予定です。

(病理担当 山崎睦子 088-863-4915)